

ガイドライン第1部の構成②

5. 水田における生物多様性保全の取組内容と記録方法

- (1) 化学農薬・化学肥料低減・不使用の取組
- (2) 冬期湛水（別名：ふゆみずたんぼ）
- (3) 中干し延期または中止
- (4) 江の設置等（江、深溝）
- (5) 魚の保護
- (6) 畦畔管理

参考資料

参考1：表示に関する一般的な留意事項

参考2：温室効果ガス排出量の低減技術について

参考3：コミュニケーション：見える化の事例紹介

ガイドライン第2部

ガイドライン第2部の構成

- 趣旨：第2部は環境負荷低減の評価とラベル化までの運用に資する。

第2部

1. 本ガイドラインの趣旨

- (1) ガイドラインの目的・背景
- (2) 本ガイドラインを利用するメリット
- (3) 用語の定義
- (4) 適用の範囲
- (5) 対象品目
- (6) 対象取組

2. 環境負荷低減の取組の評価と等級ラベル表示にかかる原則

- (1) GHG排出量算定の基礎及び本ガイドラインにおける原則
- (2) 生物多様性保全の取組評価の基礎及び本ガイドラインにおける原則
- (3) 本ガイドラインにおける等級ラベル表示の原則

3. 環境負荷低減の取組の評価と等級ラベル表示の手順

- (1) GHG排出削減の取組評価
- (2) 生物多様性保全の取組評価
- (3) 算定結果の農林水産省への報告
- (4) ラベル表示
- (5) 付与した等級の適用とデータ保管期間
- (6) 農業者等によるデータの信頼性および取組の透明性確保
- (7) 取組者へのサポート体制

4. 信頼確保に向けた取組

- (1) 情報の検証及び改善指導
- (2) 不当表示に対する対処

別記1 ラベルデザイン使用ルール

別記2 農産物の環境負荷低減に関するラベル表示運用ガイドライン・プライバシーポリシー
(参考資料)

※各生産現場での「見える化」にあたって利用しやすいよう、第2部は「3. 環境負荷低減の取組の評価と等級ラベル表示の手順」を参照するのみで、農業者等が行う具体的手順が分かるよう構成している。

取組のフローチャート

図1 見える化フローチャート



環境負荷低減の評価 ①

○ 温室効果ガス削減の取組評価

簡易算定シートを利用し、電力・燃料や原材料等の使用量を始めとした「活動量」とIDEAを始めとしたデータベースや実際の削減データに基づいた「温室効果ガス排出原単位」を掛け合わせることでGHG排出量を算定。**算定したGHG排出量と当該地域における標準排出量、すなわち地域の慣行的な栽培に基づく一年間のGHG総排出量と比較して削減貢献率を算定。**

○ 生物多様性保全の取組評価

生物多様性保全の効果は定量評価の手法が確立していないことから、本ガイドラインでは、**農産物の生産ほ場における保全の取組の実施数に応じて評価することとする。**また、生物多様性保全は環境負荷低減の見える化における**温室効果ガス削減の追加指標**とし、**温室効果ガス削減で1つ星以上の評価が行われたものに対して、温室効果ガス削減と合わせて表示することとする。**

○ 他の環境保全機能とのトレードオフ

例えば、GHG削減のために中干し期間の延長を行ったことにより、当該地域の生物の保全に悪影響が起きる場合もあり、そうした可能性が確認された場合は、江の設置等、**生物の保全のための取組も合わせて行うなど、気候変動以外の環境要素にも留意することを推奨。**

環境負荷低減の評価 ②

○ 栽培管理計画等に基づく算定とその検証

実際の農産物生産においては、算定から表示までの手続きに一定の時間を要することから、栽培管理計画等に基づき、**収穫終了前の情報で算定と表示を行うことも可能**とする。この場合、収穫終了後の実績値を用いた検証を含む、ガイドライン上で示す一定の手順を踏む。

○ 地域の取組として認める範囲・複数起源のブレンド

個々の農産物について環境負荷低減の表示を行うこととし、**評価の対象は当該農産物を生産するほ場における取組**とする。

異なる評価の農産物を合わせて出荷する場合は、最も低い評価を表示することが可能。

温室効果ガス削減の取組については、**① 基準順守方式・サンプル抽出方式・積み上げ方式のいずれかに基づく地域の取組、② 標準排出量が同一の地域起源の製品ブレンド、**のいずれかの方法による表示も可能。

○ 付与した等級の適用とデータ保管期間

等級は一年間の生産活動による環境負荷に基づき付与され、上記の場合を除き、**原則として前作の収穫終了後から当該作の収穫終了までの一年間に生産された製品に対して適用**する。入力済みの簡易算定シート及び入力データの根拠となる情報は3年間保存することとする。

等級ラベル表示 ①

○ 新たな環境負荷低減の取組の「見える化」等級ラベルデザイン

① 温室効果ガス削減



② 温室効果ガス削減 + 生物多様性保全



等級の基準

○ 温室効果ガス削減の取組

地域の慣行的な栽培と比較した温室効果ガス排出量の削減率を算定し、閾値と比較して等級を確定:

削減率 5~10%未満で★

削減率10~20%未満で★★

削減率20%以上で★★★

○ 生物多様性保全の取組

化学農薬・化学肥料の低減や冬期湛水(※)等の取組の実施程度や実施数を点数換算し、等級を確定:

1点で★

2点で★★

3点で★★★

※ 上記の商標は商標出願中です。

(※) 刈り取り後の冬期に水田に湛水し水鳥の生息地とする等の取組

(参考) 農産物の温室効果ガス簡易算定シート：入力項目

- 農作物の種類、栽培都道府県等の基本情報、水田の水管理や土壌へのバイオ炭施用等の情報を入力。
- 生産時の資材（農薬・肥料等）投入量、燃料・電力使用量を入力。
- 入力データが不明な場合は標準値データで代用可能。

基本情報

品名	米
生産地（都道府県）	新潟県
栽培延べ面積	10.0 a
収穫量（年間）	600 kg

作物物残さの取扱い

作物残さの取扱い方法	すき込み
------------	------

水田の湛水方式（品名が米の場合のみの選択項目です）

湛水方式	間断灌漑
中干し延長	中干し延長あり

土壌への炭素貯留の取り組み

バイオ炭の施用	あり
バイオ炭の種類	竹炭
バイオ炭施用量（年間）	1,000.0 kg/10a

緑肥の使用

緑肥の種類	投入なし
-------	------

水田の秋耕の取組

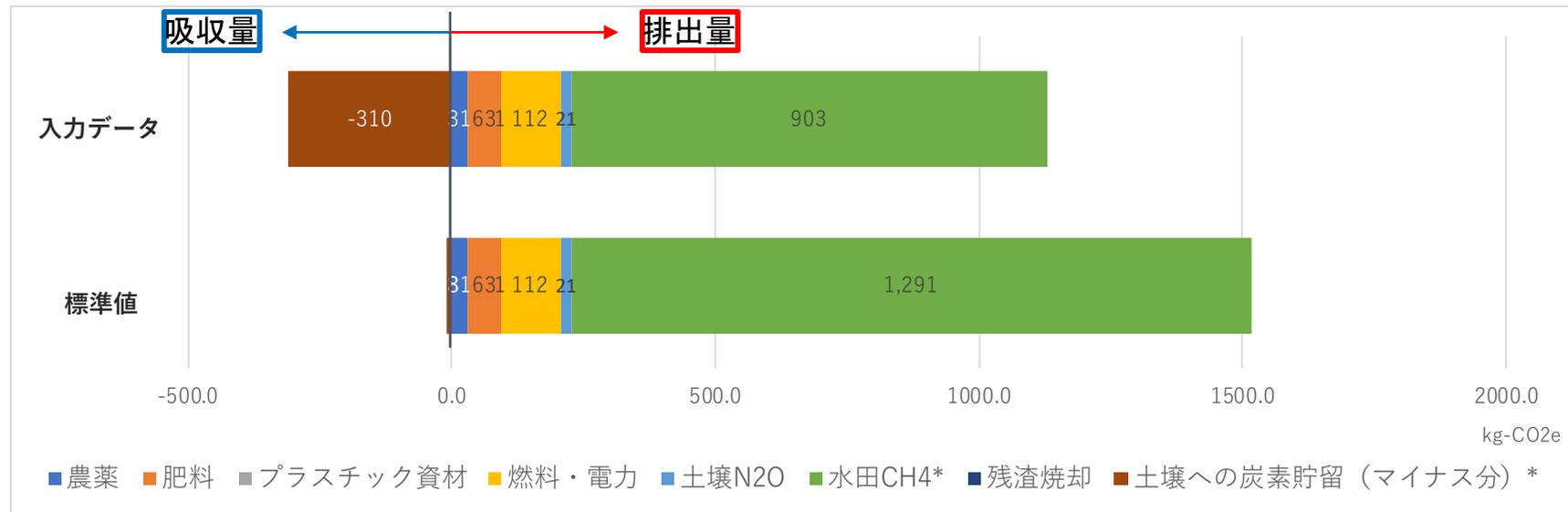
秋耕の取組	なし
-------	----

入力項目

農薬使用量	データ	標準値（自動入力）
殺虫剤	標準値を使う	- kg/10a
殺菌剤	標準値を使う	- kg/10a
その他農薬（殺虫殺菌剤等）	標準値を使う	- kg/10a
除草剤	標準値を使う	- kg/10a
肥料使用量	データ	標準値（自動入力）
窒素肥料（N成分量）	標準値を使う	- kg/10a
リン肥料（P ₂ O ₅ 成分量）	標準値を使う	- kg/10a
カリ肥料（K ₂ O成分量）	標準値を使う	- kg/10a
^(注) 堆肥	標準値を使う	- kg/10a
プラスチック資材	データ	標準値（自動入力）
農業用塩化ビニルフィルム	標準値を使う	- kg/10a
その他プラスチック類	標準値を使う	- kg/10a
燃料・電力使用量	データ	標準値（自動入力）
ガソリン	標準値を使う	- L/10a
軽油	標準値を使う	- L/10a
灯油	標準値を使う	- L/10a
A重油	標準値を使う	- L/10a
LPG	標準値を使う	- L/10a
都市ガス	標準値を使う	- m ³ /10a
系統電力	標準値を使う	- kWh/10a

(参考) 農産物の温室効果ガス簡易算定シート：出力イメージ

- GHG排出量の絶対値が算定可能。
- GHG排出量の由来ごとに定量的に把握可能。
- 農地面積10 aあたり排出量と収穫農産物重量10 kgあたりの排出量の両方で評価可能。



入力したデータに基づくGHG排出量 (農地10aあたり)			標準値 (農地10aあたり)	
10aあたりGHG排出量	820.95 kg-CO ₂ e/10a	割合	1509.47 kg-CO ₂ e/10a	割合
農薬	30.6 kg-CO ₂ e/10a	2.7%	30.6 kg-CO ₂ e/10a	2.0%
肥料	63.1 kg-CO ₂ e/10a	5.6%	63.1 kg-CO ₂ e/10a	4.2%
プラスチック資材	1.0 kg-CO ₂ e/10a	0.1%	1.0 kg-CO ₂ e/10a	0.1%
燃料・電力	111.5 kg-CO ₂ e/10a	9.9%	111.5 kg-CO ₂ e/10a	7.3%
土壌N ₂ O	21.1 kg-CO ₂ e/10a	1.9%	21.1 kg-CO ₂ e/10a	1.4%
水田CH ₄ *	903.4 kg-CO ₂ e/10a	79.9%	1290.5 kg-CO ₂ e/10a	85.0%
残渣焼却	0.0 kg-CO ₂ e/10a	0.0%	0.0 kg-CO ₂ e/10a	0.0%
土壌への炭素貯留 (マイナス分)*	-309.8 kg-CO ₂ e/10a	-27.4%	-8.4 kg-CO ₂ e/10a	-0.6%